

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。	夏季休業中の部活動時間

【題材】 大船渡中学校の生徒との部活動交流

・部活動の活動場所の提供と交流を目的とし、大船渡中学校・金ヶ崎中学校・本校の3中学校1、2年生による部活動交流

【対象】 1年生、2年生の運動部に所属する生徒

【実践の概要・詳細】

本校では、大船渡中学校との交流を基軸として、「絆」の心を育てることを目標としており、復興教育を学校経営の重点の一つとして設定し取り組んでいる。平成24年度は、本校の3年生が大船渡中学校を訪ねて合唱交流を行った。

この取り組みは東水沢中学校の生徒の震災への意識を大きく変える有意義なものであった。しかし、大船渡中学校では生徒の部活動の活動場所に困っているということだったので、平成25年度からは合唱交流ではなく、本校と同様に大船渡中学校と交流している金ヶ崎中学校と合同で、3校での部活動交流を行うことになった。

開催時期については、授業日は避けて夏季休業中に行うこととした。

<日 時> 平成26年7月29日(木)
9:00～13:00

<会 場> 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校
奥州市立東水沢中学校

<参加校および生徒数>

大船渡中学校	129名
金ヶ崎中学校	136名
東水沢中学校	188名

<参加運動部および活動場所>

- ・野球(金中) ・ソフトテニス男女(金中、森山テニスコート)
- ・サッカー(東中) ・バレーボール男女(東中大体育館) ・卓球男女(東中小体育館)
- ・柔道男女(金中武道館)
- ・バスケットボール男女(金中体育館)



<交通手段>

大船渡中学校・・・借り上げバス（3台）
金ケ崎中学校・・・スクールバス(金ケ崎町)
東水沢中学校・・・借り上げバス（1台）

<日程>

7：00 大船渡中生徒 学校集合
7：10 " 出発
8：40 東水沢中学校に到着



*各会場に到着後、部ごとに開会行事を行う

生徒が集めたベルマークを大船渡中学校へ贈る

- | | |
|------|-----------------------|
| (次第) | 1 開会の言葉 |
| | 2 日程説明（試合時間、組み合わせなど） |
| | 3 自己紹介（部長、キャプテン、顧問など） |
| | 4 交流（練習試合、合同トレーニング等） |
| | 5 集合・感想発表 |
| | 6 先生方から |
| | 7 閉会の言葉 |

12：00 大船渡中生徒 昼食（体育館で）
13：00 大船渡中生徒 出発

【生徒の感想】

卓球部男子は1、2年生が5名しかいないため、特別に3年生にも参加してもらい団体戦を組みました。大船渡中学校の人に「来て良かった」と思ってもらえるよう、意識して活動しました。2年生はレベルが高くて、3年生以外はほとんどの試合で、東中が負けてしまいました。せっかく来てくれたのに、東中が弱くて申し訳なかったです。震災で活動場所が少ないのに、しっかりと練習しているんだなと思いました。大船渡中学校の生徒に負けないように自分たちも頑張りたいと思います。(卓球部男子)

【まとめ】

- ・部活動交流では、大船渡中学校の生徒の明るく活気ある姿から、生きる強さと他者への思いやりを学んだ。また、自分たちにできる復興支援についても考えるきっかけになった。
- ・部活動交流への参加は今年度1、2年生のみで行ったが、全校生徒がかかわるためには中総体前の開催を検討したい。
- ・部活動交流会は大変意義のある活動だと考えるが、部活動の種類により、交流会を開催できない部の生徒をどのような形で参加させるかという点が今後の課題である。



教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。 ⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・伝統芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	教科(技術家庭) 学級活動 行事(文化祭)

【題材】 “はるかのひまわり” の継承活動

- ・ひまわりの栽培
- ・収穫した種子の配布

【対象】 3年生(145名)

および全校生徒、保護者、地域の方々

【目的】 “はるかのひまわり”の活動を通して、震災を風化させず、復興に向けて共に支え合おうという意識を促す。

【実践の概要・詳細】

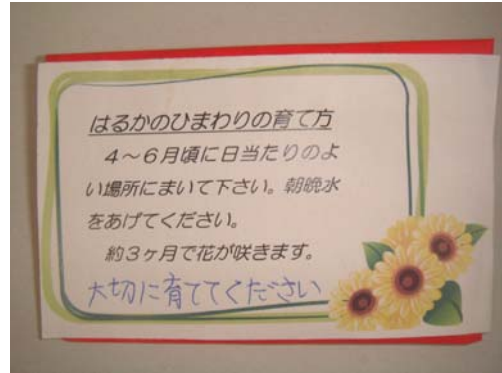
本校は、平成23年度に協力校である大船渡中学校の3年生を招待して合唱交流を行った。その際に本校が送った支援物資に対するお礼として、大船渡中学校から「感謝の旗」と「はるかのひまわり」の種子(7粒)が贈られ、当時の3学年委員会が伝統伝達式で後輩に「旗」と「ひまわりの種子」を引き継いだ。以降、ひまわりの栽培と旗の継承は3学年の取組として行うことになった。

今年度も、6月に3年生全員で種まきをして、約2万粒に増えた種を10月の文化祭で生徒や保護者、地域の方々に配布した。その際、種を入れる包み紙に『はるかのひまわり 絆プロジェクト』(「はるかのひまわり」を育て採取した種子を配布する際に由来を伝え、災害の悲惨さと共に命の尊さを再考し、「人の尊厳」と「人との関わりの大切さ」を知る感性豊かな地域社会を醸成する活動)の紹介と育て方を印刷し、復興に向けて共に支え合おうという意識の向上を図った。



<取り組みの経過>

- 6/3 ・技術家庭の授業の一環として、サツマイモの苗植えと一緒にひまわりの種まきを行った。その後、3学年委員会が中心になり世話をしたが、3年生全員で水やりを行った。
- 10/14 ・学級活動の時間に学年委員会の生徒が主体となり、生徒一人ひとりのメッセージと種子を入れる包みの作成を行った。
- 10/25 ・文化祭1日目のステージ発表で、3学年委員が“はるかのひまわり”の活動を紹介した。
- ・帰りの短学活で3学年委員会の生徒が1、2年生にひまわりの種子を配布した。
- 10/26 ・東水沢中学校文化祭の来場者に、ひまわりの種子を配布した。
- 11/8 ・創立50周年記念事業の際に、来賓の方々に、ひまわりの種子を配布した。



【まとめ】

<成果>

“はるかのひまわり”の活動では、自分たちが育てた種子を人々に配布することで、共に支え合いながら生きるということを学び、心のつながりを深めることができました。

<課題>

“はるかのひまわり”の活動は、大船渡中学校との交流の証として本校の伝統になっているが、被災県民として、被災体験を風化させないための手立てを今後も工夫していくことが必要であると感じている。

